

# サギタリウスチャレンジ チャレンジ部門

## 結果報告書

タイトル	砂像プロジェクト～京産に荒木俊馬が蘇る?!～	
代表者	学部・学年	氏名
	文化学部 4年次生	市村 千香子
企画概要	<p>京都産業大学の構内に学祖荒木俊馬先生の砂像を作る企画です。</p> <p>このプロジェクトを行うにあたり、鳥取県<sup>1</sup>のPR活動と、京都産業大学の学生の意欲の向上を目標に掲げました。砂像を通して鳥取県のことを知ってもらおうと同時に、学生が私たちの活動を見て、何かに挑戦したいと思ってもらおうきっかけをつくれたら、という思いでスタートした企画です。</p> <p>荒木先生を砂像のモデルに採用した理由は、京都産業大学が2015年度に創立50周年を迎えるため、本学の学生に興味を持ってもらいやすい砂像にしたかったからです。また、砂像には鳥取砂丘の国立公園内<sup>2</sup>と同じ種類の砂を使用しました。</p> <p><sup>1</sup>市村の出身地 <sup>2</sup>国立公園内の砂は持ち出し禁止の為</p>	
結果報告	<p>砂像を作るにあたり、メンバーが2人とも未経験であった為、まず砂像をつくる練習からスタートしました。鳥取市にある鳥取砂丘「砂の美術館」を訪れ、砂像の作り方と彫刻のコツを教えていただきました。6月2日と7月29日に訪問し、砂像作りの練習とともに、館長と企画についての協議を重ねました。</p> <p>8月29日には、大学に鳥取から砂丘の砂が搬入され、土台作りを行いました。木枠に水と砂を流し込んでかき混ぜ、土台を組み立てていく作業を行いました。また、当日、直接声をかけて集まった学生4人も一緒に作業しました。</p> <p>9月14日は、NHK大阪「週末応援ナビ あほやねん！すきやねん！」に出演し、砂像プロジェクトを紹介していただきました。生放送中、スタジオで鳥取県の観光情報をPRした結果、facebookやTwitterに多くの方から反響がありました。</p> <p>9月15日は彫刻作業1日目。3段あるうちの1番上の枠を外して彫刻し、1日目では顔の部分を8割程度掘ることができました。しかし2日目の9月16日、大型の台風が京都を直撃し、砂像のテントが崩れてしまうトラブルが発生し、彫刻作業が延期となりました。その後も何度か大雨や台風がテントを襲い、その度に対策を練りました。</p> <p>「砂の美術館」のスタッフの方からも多くのアドバイスをいただき、10月16日に砂像を完成させました。1メートル四方の立方体の上に荒木俊馬先生の上半身をのせたデザインの高さ約1.7mの砂像は、本学図書館横のテントに設置。立方体の部分には、学生へのメッセージの意味を込めて「挑戦せよ」という文字も彫刻しました。完成時の様子は、NHK鳥取に取材され、テレビにも放送されました。</p> <p>10月24日は、大学のサタデージャンボリーに合わせて砂像を公開。午前中の除幕式には多くの子どもたちや学生が集まり、記念撮影を行いました。サタデージャンボリーでは、「砂ねんど<sup>3</sup>であそぼう！」という企画を実施し、合計39人の子供たちに体験してもら</p>	

	<p>ことができました。当日は部屋に鳥取県や砂像プロジェクトの活動記録が書いてある模造紙を掲示し、親御さんには「砂の美術館」のポスターを配布するなどのPR活動も行いました。</p> <p>広報活動としてTwitterとfacebookで情報発信を行いました。また、テレビ局2社、新聞3社に私達の活動を取り上げていただき、大学の枠をこえて多くの方知ってもらうことができました。1月中旬から、京都産業大学のポスターとして電車の車内広告にも掲載していただきました。</p> <p><sup>3</sup>砂に水を加えてこねると粘土のように固まる鳥取県の企業の商品</p>
感想	<p>企画を考えるうえで、まず実際にこの企画が本当にできるのかという問題を相談することからスタートしました。相談先は、インターンシップでお世話になった鳥取市関西事務所です。まずは企画書を提出しました。しかし、サギタリウスチャレンジの応募がはじまっていない段階で、一度も作ったことのない砂像を、どのくらいの大きさで、いつ制作するか等、イメージできないことを相手に細かく伝えるのは非常に困難でした。企画採択後も、砂像の設置場所や製作期間が思うように決まらず、協議が滞ることもありました。</p> <p>「砂の美術館」へ練習に行った際、はじめて砂像彫刻の難しさを実感し、不安が募っていきました。周りの方に「人物は難しいから、別のデザイン案を考えたほうが良い」と言われることもありましたが、私たちの企画は「荒木先生」を作ることに意味があると思っていたのでデザインは変えませんでした。一方で、製作途中で砂像が崩れてしまった場合に、万が一のデザイン案は考えておかなければならないことは理解していました。しかし、「なんとかなるだろう」という甘えが出てしまい、結局当日まで考えられていませんでした。</p> <p>企画を進めていく中で一番苦戦したのは、情報発信でした。砂像を作るメンバーを募集するため、ポスターを作ったりSNSで呼びかけたりしましたが、結局メンバーは集まりませんでした。今思えば、チラシを作って昼休みなどを利用して学生に配布したり、声掛けするなどの工夫もすべきだったと思っています。どうすれば興味関心を持ってもらえるのか、最後まで悩みました。</p> <p>砂像は、砂と水だけで作るため、もろく崩れやすいという性質があり、天候に左右されやすく、時には運も必要です。土台を作る日はちょうど天候に恵まれてスムーズな作業ができましたが、3度目に鳥取へ練習に行く予定だった日と、彫刻作業2日目は、大雨や台風の影響で中止せざるを得ないというトラブルがありました。トラブルがあった時に一番大変なのは、大学や業者さんなど協力いただく方々とこまめに連絡を取り合うことでした。情報を素早く正確に相手に伝えるということは、意外と難しいことだと感じました。トラブルが起きた時にどうするかを事前に予測しておかないと、対応も遅くなってたくさんの人に迷惑がかかります。私たち運営側が協力いただく相手側とこまめに連絡を取らなければ、企画はスムーズに進まないことを痛感しました。</p> <p>私たちは、今年度の応募の中では最少の2人での応募でした。そのため、他のチームと</p>

比べると、企画自体や巻き込む人数の規模は小さいものでした。しかし、2人だったからこそ、お互いの情報の共有がしやすく、企画がスムーズに進んだように思います。2人の予定が合わず直接会えないときでも、メールではなく電話で話すことができたので、情報をより正確に伝えることができました。これは、トラブルが起きた時に対応するときも素早く対応ができた要因でもあります。また、一人に対する仕事量が多かったため、その分かかる責任も大きく、自然と企画の詳細をしっかり把握することができていました。そのため、企画が進むにつれて、事前にトラブルを予測する力が付いたように感じます。

活動を終えて、私たちの取り組みで今回の目的を達成できたかどうかは、目に見えた結果として判断することはできませんでした。しかし、沢山の方から SNS で反応をもらえたり、直接声をかけてもらったりしたことで、鳥取県のことやサギタリウスチャレンジというプログラムがあるということ、少なからず知ってもらえたという実感はあります。企画申請当初の、鳥取県の観光客を増やすという目標は大きすぎたと反省しています。この企画を通して、まずは知ってもらうことから始めなければならないということを経験することができました。

私達は「大学に砂像を作る」という活動を今後続けることはできません。その代わりに、今回の活動から学んだことを、次の新しい環境で活かし、また新たな挑戦を続けていきます。